追手門学院大学 研究シーズ　目次

■教育・文化・社会

三次元計測で迫る！文化財建造物の木部材と伝統加工技術の解明（李 暉）…… 1

学習・記憶、情動知能の研究（豊田 弘司）…… 2

デジタルの世界の「手ざわり」を表現する（林 勇気）…… 3

社会的・技術的な制約の中で人々が生み出す
「戦術（tactics）としての創造性」の研究（内田 聖良）…… 4

変わりゆく地方自治体経営と地域活性化政策についての研究（藤原 直樹）…… 5

「食」による地域振興の研究（村上 喜郁）…… 6

AIとデータで“働く・学ぶ”を見える化する（齊藤 絵理子） …… 7

「国際英語」教育の理論と実践（日野 信行）…… 8

英語学習・異文化理解の支援（アリザデ メラサ）…… 9

日本語文章を上手に書くコツを教えます（増地 ひとみ）…… 10

メタ認知を促す作文・自己表現教育（佐尾 ちとせ）…… 11

イタリアの都市政策に学ぶ（井上 典子）…… 12

※所属学部、職位、氏名五十音順に掲載

追手門学院大学

三次元計測で迫る！
文化財建造物の木部材と伝統加工技術の解明

研究内容

●伝統大工道具の調査研究

・中国の北京故宮の修繕組織、山西省・甘粛省・西安地区、浙江省において、計**1280点の伝統大工道具を実測して、伝統大工道具の地域的な特徴を解明している。**

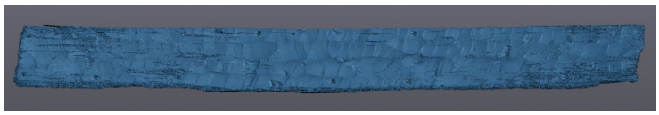




●文化財建造物の加工痕跡の調査研究

・奈良県・京都府の文化財保存修理現場にて、**中世日本の木部材に残されている加工痕跡について実測詳細調査を実施している。代表的な加工痕跡について、三次元計測を通して、加工痕跡を含めた木部材の三次元データを蓄積している。**



新規性・優位性

▶今日急速に失われつつある伝統大工道具とそれらを用いた技術を記録・保存に努めている。

▶三次元計測の手法を活用した加工痕跡の調査は日本においては初めての試みであり、従来**の2D**記録では不可能な微細な痕跡を視覚化・データ化できる。木部材の情報を最大限に保存し、将来のさらなる活用に資する資料となりうる。

応用・活用例

＜文化財修復・建築業界、博物館・観光業＞

●永久の保存が困難な文化財建造物の木部材保存への応用

●伝統的な大工技術をデジタルデータとして次世代へ継承する仕組みづくり

● 3Dデータを活用した、博物館での触れるデジタル展示や教育への展開



李　暉

講師

文学部

美学・建築文化専攻

所属学会：日本建築**学会**
建築史学会
アジア鋳造史学会
日本中国考古学会

委員等　：日本建築学会近畿支部建築史**学会 幹事**

受賞　：第**15**回アジア太平洋研究賞佳作（年間優秀博士論文）

産学官連携オフィス　✉ sangakukan@otemon.ac.jp

学習・記憶、情動知能の研究

研究内容

●学習・記憶、情動知能の研究

・どのようにすれば児童・生徒が確実に知識を定着させることが**できるかについて研究している。また、人間の感情による影響についても研究している。**

・研究実績として、「教育心理学、認知心理学および記憶の心理**学の研究に関する多数の著書」や「偶発記憶や意図記憶に関する研究、情動知能に関する研究、居場所と孤独感等の情動に関する研究など、多様な研究テーマに関する200**件を超える論文**の発表」**、「子どもの問題行動と自尊感情や適応感の育成や教育心理をテーマとした講演」など多くの実績がある。



新規性・優位性

▶教育活動においては、どのような情報提示の仕方が最も効果的であるかの問題の解明を目指**しており、研究活動においては、研究デザインをシンプル化することおよびデータをできる**限り多くの視点から分析して新しい発見をえる可能性を追求することを大切にしている。

応用・活用例

＜学習・記憶、情動知能の研究、地域貢献活動＞

●中小企業経営者に対する環境心理学、社会心理学のセミナー（リーダー論などの講義）**の開催**

●青少年の居場所や学習活動に関するセミナーの開催



豊田　弘司

教授

心理学部 心理学科

心理学研究科

所属学会：日本教育心理学会
日本心理学会
日本発達心理学会
日本認知心理学会
関西心理学会
APA

委員等　：日本教育心理学会 理事
関西心理学会 **顧問**

産学官連携オフィス　✉ **sangakukan@otemon.ac.jp**

デジタルの世界の「手ざわり」を表現する

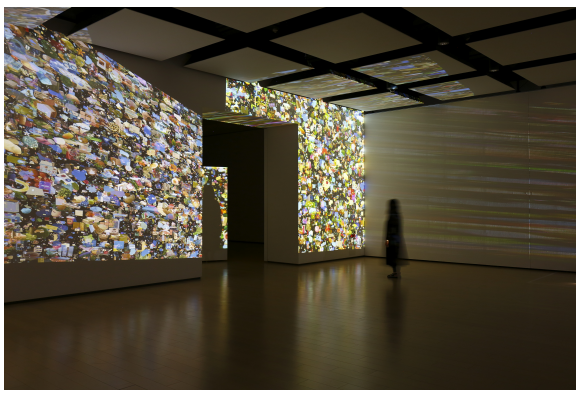
研究内容

●映像の制作と研究

・デジタル写真やデジタル映像の社会での需要と消費のあり方を模索する映像制作と研究を行っている。

映像制作は、膨大な量のデジタル映像や**写真をコンピュータに取り込み、1コマず**つ切り貼りして緻密に合成する作業を手作業で行うことにより、大画面画像（映像イ**ンスタレーション）を制作している。**

・制作した作品は各地の美術館や個展に出品しており最新の作品は大阪伊丹空港に展**示している。**



新規性・優位性

▶本研究で制作された映像は、膨大な量のデジタル写真をコンピュータに取り込み、**1コマずつ切り貼りして綿密に合成した独自のアニメーションであり、全てこの世界にある写真か**らできているにもかかわらず、一見**CG**の映像作品にも見える作品である。

応用・活用例

＜映像の制作・研究による社会貢献＞

●音楽のライブとともにプラネタリウムで360度の映像作品展示
●子供向けの映像を作るワークショップ活動
●同世代のアーティストとのコラボレーション



林　勇気

教授

社会学部 社会学科

所属学会　：映像学会

委員等　：茨木市映像芸術祭 **審査員**
フクイ夢アート 審査員
宝塚市民文化芸術振興会議 **構成員**
映像芸術祭MOVING 実行委員

受賞学術賞：**優秀賞、PAT in Kyoto**
京都版画トリエンナーレ (映像作品「すべての終わりに」)

産学官連携オフィス　✉ sangakukan@otemon.ac.jp

社会的・技術的な制約の中で人々が生み出す「戦術（tactics）としての創造性」の研究

研究内容

●戦術（tactics)としての創造性とは

・**フランスの思想家 ミシェル・ド・セルトーが提唱した「戦術（tactics）」を参照し、市井**の人々が権力や制度によって与えられた環境の中で、自らの目的のために、ときに逸脱し**ながら**生み出す創造的な実践を指す。例えば、都市計画によって人々が大通りを利用するよう設計された街であっても、人々は気分や好みに応じて寄り道や迂回を行う。また、植民地時代に武闘の訓練を禁じられた奴隷たちが生み出したダンスのような格闘技「カポエイラ」や、関東大震災後にありあわせの材料で作られた「バラック小屋」なども、制約の中で人間らしく生きるために生まれた戦術的な創意工夫の例として捉えている。

●民話・民間信仰の「戦術」としての姿に迫る

・**2016**年に東北へ移住したことをきっかけに、東北で受け継がれてきた民間信仰や民話には、人々が切実な困難や生きづらさを乗り越えるための生活に根ざした創意工夫の側面がある**ことを実感した。これらを「戦術」として捉え、フィールドワークやアーカイブ、インタビュー、制作実践を通してその文化的意義や現代的価値を探究している。**

●現代への「戦術としての創造性」の実装

・リサーチによって得られた知見を現代社会へ応用する試みとして作品制作を行う。「あり得るかもしれない信仰」や「現代にあり得たかもしれない民話」を構想し、**VRやインター**ネットを用いたアートプロジェクトとして実装することで、人々の困難や孤立に寄り添う**文化的実践の可能性を探っている。**

新規性・優位性

▶民俗学的調査とアート実践を往還しながら研究を行う点。過去の文化を記録・分析するだけでなく、その知見を現代社会へ応用し、新たな文化実践として提案できる。
▶制作実践を通して、断片的な記憶や未記録の伝承についても「あり得たかもしれない姿」**として可視化し、一つの可能性として後世に残すことができる。**

応用・活用例

【文化・観光】デジタルアーカイブ、地域文化の継承や活用。
【教育】民話や民間信仰に**含まれる人々の創意工夫を教材化。**



大地の芸術祭2024出品作品
「カマガミサマたちのお茶会：信仰の家のおはなし」
※地域の人のインタビューより当時の民間信仰を再現しアーカイブ、リ**サーチをもとにオブジェやアニメーションを制作。**



内田　聖良　　所属学会：**カルチュラル・スタディーズ学会**

講師

社会学部 社会学科　　委員等　：WIRED CREATIVE HACK AWARD ファイナリスト
第18回文化庁メディア芸術祭　審査員推薦作品
Spiral Creator's Festival 19 金森香賞
NEW VIEW AWARD 2021　ファイナリスト
平成30年度　メディアクリエイター育成支援事業　採択

産学官連携オフィス　✉ sangakukan@otemon.ac.jp

変わりゆく地方自治体経営と地域活性化政策についての研究

研究内容

●自治体の政策および行政・地域の経営手法の研究

・持続可能な地域の発展を目指す自治体の政策や行政・地域**の経営手法についての研究、即ち、地域政策、自治体経営、**地域国際戦略をキーワードに研究を進めており、自治体との共同プロジェクトも意欲的に行っている。

・具体的には、「地域活性化の事例（官民連携による観光振興。移住支援、子供・若者育成支援、特産品の新たな価値創造など）にみる自治体の攻めの戦略の研究」、「鹿児島**県徳之島伊仙町のまちづくり支援として、学生による町の**魅力の現地調査と魅力紹介動画の配信活動」などがある。



新規性・優位性

▶政令指定都市の自治体における様々な業務の実務経験に基づき、地域政策や行政・地域の経営手法の研究を行っている。**2018年には著書『グローバル化時代の地方自治体産業政策』が「国際公共経済学会 学会賞」を受賞し、2019**年には「行政に関するアジア・太平**洋地域機関研究大会2019」にて最優秀賞を受賞している。**

応用・活用例

＜自治体の政策および行政・地域の経営手法の研究＞

●ゼミ学生を指導しての新たな地域活性化プロジェクトへの参画

●自治体産業振興計画、上下水道等のインフラ整備・運営計画への助言・相談



藤原　直樹

教授

地域創造学部
地域創造学科
経営・経済研究科

所属学会：**Regional Studies Association、**
Eastern Regional Organization for Public Administration
日本計画行政学会、地方行政実務学会
国際公共経済学会ほか

委員等　：地方行政実務学会 理事（研究支援委員）
日本計画行政学会関西支部 理事
各種審議会・有識者会議 委員(内閣府、大阪府、大阪市、茨木市、門真市、宇治市等)

産学官連携オフィス　✉ **sangakukan@otemon.ac.jp**

「食」による地域振興の研究

研究内容

●フードツーリズムとガストロノミー概念を活用した地域振興の研究

・**フードツーリズムについて経営学の視点から研究しており、最近では2022年11月に日本**フードツーリズム学会と共催して「地域の食資源としてのコナモンの魅力」をテーマにし**た講演会を開催している。**

・また、ガストロノミー（美味学・美味術）概念を活用し**た食による地域振興を中心に研究を進め、PBL教育とし**て学生とともに商品開発やイベント開発の実践も行って**いる。具体的実績には、「**茨木市見山地区（見山の郷）**との共同による商品開発」、「大阪府中央卸売市場との丼物の共同開発」、「京阪百貨店主催の『SDGs 食育フェスタ』への出展」などがある。**



新規性・優位性

▶フードツーリズムやガストロノミーを活用した地域振興の研究を行うとともに、ゼミ生を指導して学外の学生ビジネスプランコンテストにも参加し、関西ベンチャー学会賞（優勝）**やCVG中小企業基盤整備機構** 近畿本部長賞などを受賞する学生を輩出するなど「研究・教**育・社会連携」の三位一体の活動を展開している。**

応用・活用例

＜「食」による地域振興：商品開発・イベント開発など＞

●地域のスタートアップ事業支援

●地域の中小企業の市場開拓支援

●地域食資源の研究



村上　喜郁

教授

経営学部 経営学科
経営・経済研究科

所属学会：**日本フードツーリズム学会**
工業経営研究学会 、日本観光研究学会
日本経営学会

委員等　：茨木市商工会議所評議会 評議員
豊中市都市農業振興基本計画審議会 会長

AIとデータで“働く・学ぶ”を見える化する

研究内容

●人の働き方と学びを支える数理的意思決定支援に関する研究

・**人が「どのように働くか」「どうすればもっとよい職場・学びの場になるか」――そうしたテーマに対して、データ**と数理の力で答えを探す研究をしている。大学・企業・自**治体などが抱える、「人が育たない」「すぐ辞めてしまう」「うまく組織がまわらない」といった課題に対し、ア**ンケートや自由記述などの定量的アプローチに基づいて構造化を行い、改善に向けたシミュレーションや最適化モデルを設計し、現場で役立つ分析と提案を行う。





How transportation convenience to campus and activity opportunities affect university preference



(Top)WASEDA EDGE-NEXT (2017)Beyond 2020 NEXT PROJECT, https://www.waseda.jp/top/news/53561
(Middle)Waseda University Graduate School of Political Science (2017) Active Learning among Students and Research Outreach in Robotics Research, https://www.waseda.jp/top/news/52191
(Bottom)Eriko, Saito, Kotomichi, Matsuno, Takahiro, Ohno(2024)The Influence of Transportation Convenience to Campus and any Activity Opportunities on University Preference: Through a Comparison of Two Extremes in Tokyo, Asia Pacific Industrial Engineering Managemen Systems Conference

新規性・優位性

▶教育・雇用・組織づくりの実務データを活かし、現場で役立つ分析と提案ができる
▶統計やAIを使い、人の行動や意思決定をわかりやすく整**理・可視化できる**
▶大学・企業・自治体の実証研究、国際学会や英語論文によ**るグローバルな発信が可能**

応用・活用例

＜人の働き方と学びに関する研究＞

●企業：女性活躍推進や若手育成施策の効果測定と改善提案子育て支援と働き方支援の両立**バランスモデルの設計**
●教育機関：大学経営における学部統廃合やキャンパス移転に関する最適化モデルの構築授業満足度や学修成果の見える化、学生の定着支援戦略の策定



齊藤　絵理子

教授

共通教育機構

所属学会：日本経営工学会、**情報処理学会、経営情報学会**
日本経営システム学会、APIEMS・ACMSA等に毎年参加

委員等　：早稲田大学価値創造マネジメント研究所研究員
量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所研究員
東京都小金井市企画財政部男女共同参画委員
文部科学省「次世代アントレプレナーシップ育成事業」
任命技術審査委員
JIMA論文誌編集委員、**JAMS**研究大会実行委員等、多数

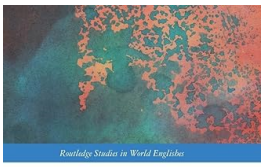
産学官連携オフィス　✉ sangakukan@otemon.ac.jp

「国際英語」教育の理論と実践

研究内容

●グローバル言語としての英語教育の理論的研究

・**EIL (English as an International Language)、WE (World Englishes)、ELF (English as a Lingua Franca)**等の概念と隣接諸科学の知見を統合的に発展させて、英米の枠を超えた「国際英語」の教育理論を構築する研究を行っている。



EIL EDUCATION FOR THE EXPANDING CIRCLE

A JAPANESE MODEL

Nobuyuki Hino



●非母語話者モデルの英語教育方法論の実践的研究

・非母語話者の自己表現と非母語話者間のコミュニケーションを主眼とする英語教育の方法論を実践的に研究している。

研究成果は、Routledge, Cambridge University Press, Springer, Wiley, John Benjamins, De Gruyter Mouton, Palgrave Macmillan, Multilingual Matters, Georgetown University Press等の世界的に強い影響力を有する国際学術出版において、著書や論文として発表している。

新規性・優位性

▶ 社会のグローバル化とともに、従来の母語話者モデルの英語教育は変革を迫られており、そのための理論的基盤や具体的な教育方法を示すことは今日の世界的な課題である。

▶ IAWE大会、RELC大会、Asia TEFL大会、PAAL大会、LTTC大会、ELLAK大会、TELLSI **大会、ICEE大会、QSサミット等の高い権威を有する国際学会において、基調講演・招待講演をつとめている。**

応用・活用例

＜グローバル化に対応した英語教育のモデルの開発＞

●英語を母語や第二言語としてではなく国際コミュニケーションの手段として用いている **国々 (日本を含むいわゆる Expanding Circle) における英語教育のカリキュラム・教材・教授法の開発。**



日野　信行

教授

共通教育機構

所属学会：**International Association for World Englishes (元理事)**
日本「アジア英語」学会 (元会長)
大学英語教育学会

委員等　：Editorial Advisory Board, World Englishes (Wiley).
Editorial Board, Intercultural Communication and Language Education series (Springer).
International Advisory Board, Routledge Advances in Teaching English as an International Language series (Routledge).

産学官連携オフィス　✉ sangakukan@otemon.ac.jp

英語学習・異文化理解の支援

グローバル化が進展する中で、英語を国際的なコミュニケーション手段として習得することが求められており、あわせて多文化に対する理解を深めることも重要である。

研究内容

●VRを活用した英語学習・国際交流支援に関する研究

・英語学習を基盤として、学生の異文化理解を深めることを目的に、学内外で**VR技術を活用した国際交流イベントを実施し、学習者の体験や学習効果について研究している。**

●VRや対話型AIを活用したバーチャル留学に関する研究

・**本研究では、日本と海外の教育機関の学生をつなぐ**教育実践を行っている。具体的には、時差の少ない**オーストラリアやニュージーランドの大学と国際共同研究を進め、バーチャルツアーや対話型AIを活用することで、学生同士のコミュニケーションを促進する。これにより、言語や文化への関心を高めるだけでなく、**語学学習や異文化理解の深化に加えて、**イマーシブ技術や生成AI**に関する知識の向上も目指している。**



https://youtu.be/w-OE9gbzlQY?si=hjvhLKPCwjeWgZED

新規性・優位性

▶語学教育におけるVRや対話型AIに関する研究は現時点ではまだ少なく、未来の教育手法を開拓する上で重要な研究分野である。本研究では、先端技術を活用し、質の高い教育体験の提供を目指している。これまでの研究成果は日本学術振興会からも評価され、若手研究**課題として2**度の採択を受けている（課題番号：**22K13756、25K16379**）。

応用・活用例

＜ VRや対話型AIを利用したバーチャル留学に関する研究＞

●バーチャル留学を推進することで、経済的・時間的な制約により海外留学が困難な学生にも国際交流の機会を提供し、その貴重な経験を大学院での学びや将来の職業生活に活かすことができる。



アリザデ　メラサ

准教授

共通教育機構

所属学会：全国語学教育学会（JALT）
外国語教育メディア学会（LET）
e-Learning教育学会（WELL）
Australasian Society for Computers in Learning in Tertiary Education（ASCILITE）

委員等　：　e-Learning教育学会 理事
全国語学教育学会　会計担当者連携窓口
ASCILITE モバイルラーニング（ML）SIG 会員
JALT学会 優秀発表賞

産学官連携オフィス　✉ sangakukan@otemon.ac.jp

日本語文章を上手に書くコツを教えます

研究内容

●日本語の表記の仕方の研究

・日本語の書き言葉における漢字・ひらがな・カタカナの使われ方を研究している。具体的**には、現代日本語におけるカタカナ使用の実態を明らかにするとともに非外来語がカタカナ**で表記される背景を探究し、主に身近な資料から収集した非外来語のカタカナ表記の実例を提示して実態を示し、それらがなされる要因と、要因同士が関わり合う仕組みと原理を研究**している。**

●日本語の文章の書き方

・論理的でわかりやすい文章をどうすれば書けるのか、初年次生の文章力をどのように向上させるかなどを研究している。



新規性・優位性

▶日本語の表記の仕方（日本語の書き言葉における漢字・ひらがな・カタカナの使い方）につ**いて日本語文章を作成するうえでの一般的な目安を提示できる。**

▶早稲田大学ライティングセンターでのチューター経験から、論理的でわかりやすい文章の書**き方を企業や自治体などのニーズに応じて教えることができる。**

応用・活用例

＜日本語でわかりやすく書いて伝えるための研究＞

●「日本語検定」受検対策講座における語彙・言葉の意味の講義

●「社会人基礎力」養成を目指した日本語授業のデザイン

●児童を対象にした日本語の書き方教室



増地　ひとみ

准教授

共通教育機構

所属学会：日本語学会、早稲田大学国文学会、
早稲田大学日本語学会
日本リメディアル教育学会、初年次教育学会

メタ認知を促す作文・自己表現教育

生成AI時代の学習支援を見据えて

研究内容

●メタ認知支援の研究

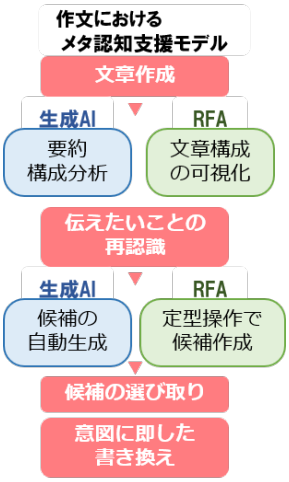
・作文におけるメタ認知力とは、自分の書いた文章を**初めて読むつもりで**読み返せる力。
本当に意味が通じるか、自分で自分にツッコミを入れつつ修正していく力。
良質な文章、的確な自己表現にはこのメタ認知力が何よりも物を言う。
そこで、以下のような手法を用いて、メタ認知力を高める研究を行っている。

●生成AIによる文章の客観化

・**AIに文章を要約させることで、自分の言いたかったことが本当に言えているのかを確認する。あるいは、自分の書いた文章の構造を説明させることで,伝わりにくい部分を明確化する。**

●修辞機能分析（RFA）による文章の可視化

・**「やったー」という喜びの表出と「そのとき私は嬉しかったのである」という記述を比べた場合、後者のほうが自身の感情を客観視している。**
RFAは、こうした原理を基に、発話の場面依存度（今・ここ・私からの距離）に注目し、それを脱文脈化指数として数値化する分析法。
「何となく単調」という直感をRFAによって可視化し、修正すべき方向を見出す。



新規性・優位性

▶生成AIは熟達した指導者と同レベルの文章生成能力を有する（検証済）。
AIを代筆の道具から、辞書・類語辞典・コーパスと同感覚で活用し、例**文作成装置、発想転換装置に昇華させる。今後の言語教育は、より自分**の意図に沿った候補を選び取る力を育てることにある。
そのためには、自分が何を伝えたいのかを問い続けるメタ認知力が不可**欠である。**

応用・活用例

＜メタ認知力を高めて的確な自己表現を＞

●**生成AI**の扱いに苦慮している方へ：積極的活用モデルの提案
●作文の修正に悩んでいる方へ：**RFA**による具体的な書き換え方略の提供



佐尾　ちとせ

所属学会：**日本語教育学会**
日本語習熟論学会
言語処理学会

常勤講師

共通教育機構

イタリアの都市政策に学ぶ

研究内容

●イタリアの都市政策研究に基づく景観保全と地域政策の研究

・**生物多様性保護や気候温暖化対策などの今日的な都市問題に直面する、イタリアのミラノ、ボローニャ等を中核とした大都市圏都市政策を研究対象としている。**

・**日本ではゼミ生とともに、特に小規模都市における都市と**農村の新たな関係構築に関する調査を行っている。
ゼミ生による実績として、滋賀県日野町の景観調査があり、地域を訪問して空き家や空き地等の現状を調査し、その保全や活用の在り方について検討するとともに、地域内で住民の方々との意見交換会や成果報告会を開催している。





新規性・優位性

▶文化庁文化財部記念物課文化財調査官として、文化的景観保護制度における制度設計に関わった。現在は、ボローニャ大学研究者との共同研究を進め、ボローニャと金沢という二つ**の歴史都市が抱える課題について比較検討するなど、イタリア諸都市の都市保全策に詳しい。**

応用・活用例

＜地域政策、景観保全＞

●住民参加による景観保全とまちづくり
●都市と農村の連携、新しい都市ー農村関係の構築



井上　典子

シニア研究員

所属学会：**地域社会学会、日本地域政策学会、地中海学会**
日本イコモス国内委員会、日本計画行政学会
日本都市計画学会

委員等　：日本地域政策学会 **第11期研究推進委員**
The European Journal of Creative Practices in Cities and Landscapes (CPCL) a member of the Scientific Committee

産学官連携オフィス　✉ **sangakukan@otemon.ac.jp**